

SHIRAKOBATO

しらこぼ



1998. **S**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 172

日本野鳥の会 埼玉県支部

総会のご報告・支部長が代わりました

平成10年6月28日（日）浦和市内の浦和市民会館で、第14回支部総会が開催されました。

■記念講演

玉井正晴幹事の司会で、最初に本部サンクチュアリセンター普及室長箱田敦只氏の記念講演「サンクチュアリセンターの人材育成」があり、横浜自然観察の森における市民ボランティア組織育成の実例などが、スライド映写をまじえて報告されました。

■9年度事業報告と10年度事業計画

記念講演の後、議長に高草木泰行幹事、書記に榎本秀和幹事、議事録署名人に倉林宗太郎・桜庭勇両幹事が選出されて議事に入り、海老原美夫事務局担当副支部長が、平成9年度の会員増加率は6.2%であったこと、合計102回の探鳥会や様々な普及活動、研究部、編集部、事業部、野鳥記録委員会などの活動に関する事業報告と、引き続きほぼ9年度の事業を継続する10年度の実業計画案を説明して、異議なく一括承認されました。

■9年度決算と10年度予算

引き続き審議された決算書は、従来と少し形式を変え、一般会計と事業部会計を分かりやすく区別しました。

予算面では、事業部会計の内、運営準備積立金という項目の新設がありました。今までは期末繰越金をそのままにして、将来の万一の場合や自然保護活動などのための資金として説明をしてきただけですが、その性格をより明らかにするために、支部の将来の運営に関する準備積立金であると、明確に位置づけたわけです。

楠見邦博・岡安征也両監事の監査報告を受けて、決算と予算案は、異議なく承認されました。

■10年度役員の出選

大変残念なことですが、松井昭吾支部長と町田好一郎幹事が、様々な事情で退任を申し出られました。

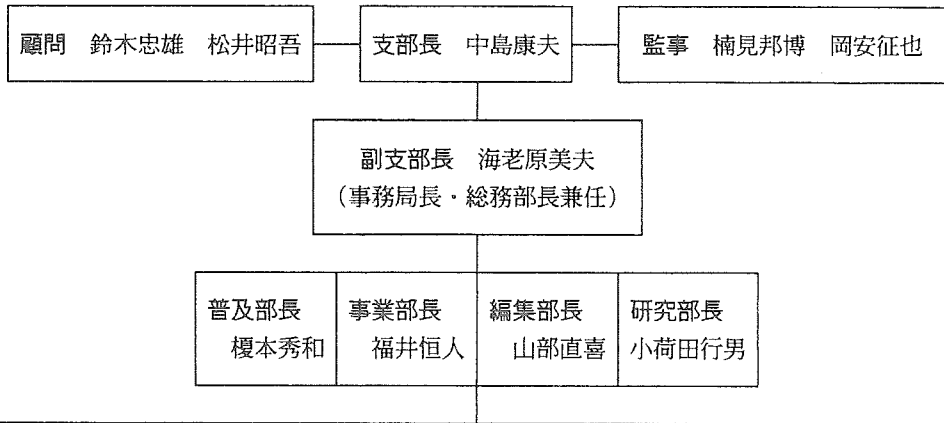
一方で、役員会案として提案された新たな候補は、浅見健一（大宮市）、浅見徹（大宮市）、大坂幸男（上尾市）の3氏です。

再任と新任の役員会案が承認されたところで一時総会を中断、支部規定に基づいて幹事の互選で支部長などを選出する手続きが取られ、新支部長として中島康夫前副支部長が選ばれました。その他の副支部長、監事らは前年度通りとして、松井昭吾前支部長は顧問に就任することになりました。

平成9年度決算・10年度予算

収入		
項目	9年度決算	10年度予算
一般会計期首繰越金	1,731,358	1,575,448
会費	4,542,700	4,500,000
寄付金	61,260	100,000
探鳥会参加費	297,839	300,000
雑収入	19,714	10,000
補助金	400,000	400,000
(小計)	7,052,871	6,885,448
事業部期首繰越金	5,020,639	5,364,010
事業部売上金額	830,935	850,000
事業部雑収入	99,970	10,000
(小計)	5,951,544	6,224,010
合計	13,004,415	13,109,458
支出		
項目	9年度決算	10年度予算
什器備品費	75,265	200,000
消耗品費	44,363	50,000
支部報印刷費	1,151,244	1,500,000
支部報送送料	1,580,460	1,800,000
印刷コピー代	457,186	500,000
通信費	184,046	200,000
雑費	156,567	200,000
家賃	951,000	1,200,000
水道光熱費	58,316	70,000
仮払い金	23,729	30,000
総務部費用	179,580	150,000
普及部費用	171,088	200,000
編集部費用	50,000	50,000
研究部費用	68,250	30,000
総務部扱仕入代金	137,929	0
予備費	188,400	500,000
一般会計期末繰越金	1,575,448	205,448
(小計)	7,052,871	6,885,448
事業部仕入れ額	585,854	680,000
事業部費用	1,680	10,000
運営準備積立金	0	5,000,000
事業部期末繰越金	5,364,010	534,010
(小計)	5,951,544	6,224,010
合計	13,004,415	13,109,458

日本野鳥の会埼玉県支部平成10年度役員



幹事

浅見健一 浅見徹 石井智 伊藤芳晴 大坂幸男 工藤洋三 倉林宗太郎 小池一男 小林みどり (野鳥記録委員長) 佐久間博文 桜庭勇 新堂克浩 杉本秀樹 高草木泰行 玉井正晴 手塚正義 内藤義雄 中村榮男 橋口長和 長谷部謙二 菱沼一充 藤掛保司 森本國夫 吉安一彦 和田康男

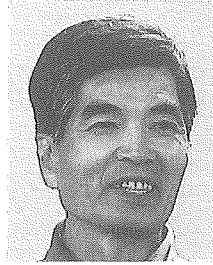
松井昭吾 前支部長

白頭鷺の支部長として6年間、皆さんのお世話になりました。皆さんのおかげでかろうじて支部長という役目を果たさせて頂きましたが、これでやっと中島さんにバトンタッチできてほっとしています。これからは今までの私に対すると同じように、中島新支部長をサポートして下さるようお願いいたします。

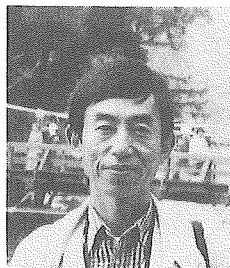


中島康夫 新支部長

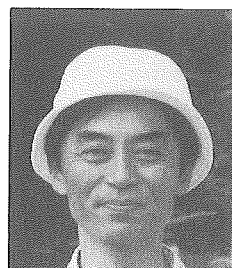
松井さんには引き続き支部長をやって頂きたいとお願ひしたのですが、残念です。私は支部長という柄ではないので辞退したのですが、役員会で推薦を受けて、お引き受けすることになりました。前に12年間普及部長を務めた経験を踏まえて、引き続き支部長として頑張ってみようと思っています。



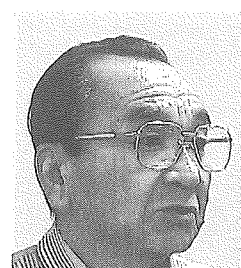
箱田敦只 氏



浅見健一 新幹事



浅見徹 新幹事



大坂幸男 新幹事

1998年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

今年の1月15日は、例年にない大雪となりました。歩くのもままならぬ条件にもめげず、例年の半数を超える地点で調査が実施されました。御協力いただいた方々の熱意に感謝いたします。

予備調査日あるいは、代替日の調査のデータを含めて、一覧表にしました。

(柳原正昭)

調査地	入間川	利根川	狭山湖	調整池	小群川	新河岸川	武蔵丘陵 森林公園	昭和池	さきたま 古墳	白幡沼	柳瀬川	埼玉県支部	調査地	
調査範囲	豊水橋 新富士見橋	坂東大橋下流	湖全部	池全部	川崎橋 壘橋	公園内の池全部	菖蒲公園			沼全部	富士見橋 栄橋		調査範囲	
地域	狭山市	本庄市	所沢市	川越市	川越市	滑川町	久喜市	行田市	浦和市	志木市	富士見市	総合計	地域	
マガモ		365	77	4	21	1,694	137	882			2	3,182	マガモ	
カルガモ	39	219	3	23	87	252	422	155		4	21	1,225	カルガモ	
コガモ	14	385			77	96	231	122	4	154		1,083	コガモ	
トモエガモ		1		12				1					14	トモエガモ
ヨシガモ		15	2			12							29	ヨシガモ
オカヨシガモ		69				9	2						80	オカヨシガモ
ヒドリガモ		6	14	35	178	18	47				332		630	ヒドリガモ
オナガガモ		164	3	180	52	189	3	10	4	200			805	オナガガモ
ハシビロガモ		2			1	25	44				4		76	ハシビロガモ
ホシハジロ		7				8	85				1		101	ホシハジロ
キンクロハジロ		3	1			6	109						119	キンクロハジロ
ホオジロガモ			3										3	ホオジロガモ
ミコアイサ		3											3	ミコアイサ
カワアイサ		18											18	カワアイサ
カモSP									1		2		3	カモSP
種類	2	13	7	5	6	10	10	4	3	7	14			
合計	53	1,257	103	254	416	2,309	1,081	1,170	12	716	7,371			
調査者数	1	1	1	1	2	1	3	1	1	3	15		種類	
1982年合計	—	—	4,709	—	—	7,897	5,672	—	13	—	22,260			
1983年合計	—	—	6,449	78	—	8,323	6,310	—	22	—	25,286			
1985年合計	—	6,284	4,017	—	—	6,065	7,940	—	134	—	25,476		16	
1986年合計	—	1,763	2,955	—	—	6,418	6,262	—	—	—	21,838		15	
1987年合計	—	3,210	3,170	—	—	6,814	7,630	—	—	—	24,866		17	
1988年合計	—	3,483	1,692	—	—	3,367	7,055	—	—	—	18,992		17	
1989年合計	589	3,148	664	—	—	3,375	7,823	—	—	—	28,839		18	
1990年合計	332	1,400	1,071	702	—	4,900	5,495	—	234	—	24,007		18	
1991年合計	433	2,136	1,132	—	—	2,788	4,290	—	51	—	20,779		18	
1992年合計	250	2,367	861	716	—	4,590	4,713	—	80	877	29,248		17	
1993年合計	170	1,275	528	396	—	2,899	4,174	872	74	632	21,291		19	
1994年合計	228	2,150	848	659	—	4,029	3,864	1,229	66	823	25,859		18	
1995年合計	168	1,359	745	483	1,007	4,877	3,091	874	60	714	24,316		16	
1996年合計	180	1,239	531	406	775	1,888	—	1,140	19	887	18,705		19	
1997年合計	121	1,582	655	344	555	1,343	—	718	24	630	17,157		15	
1998年備考	1/17	1/13	1/17	1/17	1/15	1/24	1/10	1/24	1/15		ヒドリガモ アメリカヒドリ			

1998年春シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日 時：1998年4月29日
9：30～11：10

1995年～1998年 春のシギ・チドリ類調査結果

調査場所：大久保農耕地

天 候：晴れ

この日は関東地方から西は高気圧に覆われ、夏を思わせる暑い日になりましたが、支部会員15名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

観察された種数・個体数は8種158羽で、昨年の春と比較すると種数で5種多くなり、例年と同じぐらいの種数となりましたが、全体の個体数は33羽少ない結果となりました。

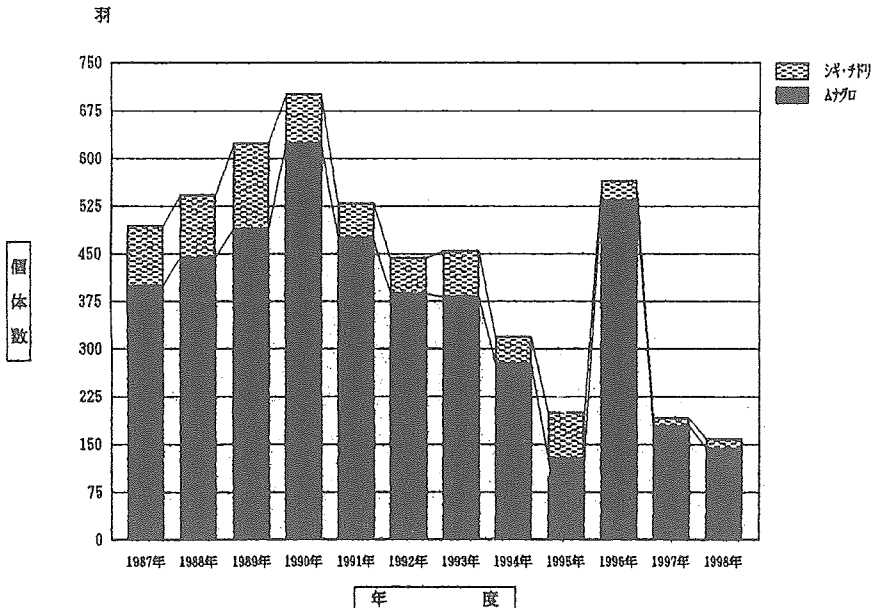
大久保農耕地のムナグロを調査している人によると、「最近ではムナグロがだいぶ減少している」との話がありました。理由はまだよくわかりませんが、環境の変化やカウントの時期など、様々な要素がからみ合っているのではないのでしょうか。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

(石井 智)

調 査 地	大 久 保 農 耕 地 浦 和 市 / 大 宮 市			
	鳥 類	'95年	'96年	'97年
コチドリ	7	1	—	1
ムナグロ	127	534	178	143
キョウジョシギ	1	—	—	2
ハマシギ	—	9	—	—
タカブシギ	25	5	—	—
キアシシギ	—	—	—	2
イソシギ	—	—	—	1
チュウシャクシギ	11	3	10	2
タシギ	26	12	3	6
ジシギSP.	2	—	—	1
個 体 数 合 計	199	564	191	158
種 数 合 計	7	6	3	8

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



夏鳥を満喫

石光章（所沢市）

'98年春の戸隠・飯綱高原は、異常気象の影響か春ゼミが大合唱。野鳥の囀りは押されがち。それでも当地定番のニューナイズメが律儀に出迎えてくれた他、アカハラ、イカル、ノスリ等が姿を見せてくれた。宿舎近くの宝光社では、杉の古木の天辺で囀るオオルリの姿を捜して右往左往、漸く見られた感激が首の痛さを忘れさせてくれた。

早起きは探鳥の鉄則を証明してくれたのが2日目。オオジギのディスプレイフライトに始まり、野鳥の大コーラスにひたりながら、奥社参道ではフクロウの幼鳥をじっくり観察。殆ど動かない対象だけに、観察ポイントは各探鳥グループが入れ代わり立ち代わりで、さながらにわか門前市の様相。さらにハイライトは隋神門近くでのマジロ。3年振りの出現を全員でたっぷり観察できた。その他珍しく目立ちたがり屋のコルリが中空の梢で延々と囀るなど。午後は雨で早仕舞となったものの、菱沼リーダーの“財布一時紛失事件”という番外編も加わって、思い出深い探鳥会だった。

おまけの情報コーナー

埼玉県自然学習センター・夏のイベント案内
〈昆虫と友達になろう〉

・'98夏休み昆虫写真展：7月18日(土)～8月30日(日)9:00～17:00 無料。申込不要。

素晴らしい小さな生き物達の姿を、ご覧下さい。

・セミのぬけがら調査：8月22日(土)10:00～12:00 セミのぬけがらを採集し、種類と数を調べる。参加費100円。定員50名(申込順)。

・夏休み昆虫学習会：8月25日(火)13:00～14:00 昆虫の魅力と不思議さについて。参加費無料。定員50名(申込順)。

・子供自然学級：8月29日(土)13:00～14:00 「むし」の種類と数を調べ、自然の豊かさを知る。参加費無料。定員30名(子供のみ、申込順)。

〈バードカーピング教室〉

8月29日、9月5・19日、10月3・17・31日(いずれも土)講師 成川治。材料費実費抽選20名。往復葉書でお申し込み下さい(8月10日消印有効)。

お問い合わせ先：埼玉県自然学習センター
〒364-0026 北本市荒井5-200 TEL0485-93-2891

白頭鷺の英名講座(番外)

バードウォッチャーかバーダーか？

言葉は生きていて時代と共に変化します。私共の何気なく使っている「バードウォッチャー」という言葉も例外ではありません。

その昔、中西悟堂先生が「野鳥」、「探鳥」という言葉を創られ、「野鳥の会」とか「探鳥会」という言葉が次第に一般化してきました。最近ではもっぱら英語のバードウォッチング(Bird-watching)やバードウォッチャー(Bird-watcher)がごく普通に使われます。いまや世をあげてレジャーブーム、その中で「バードウォッチング」は健全で、なにかハイクラスな印象をもってより多くの人に迎えられています。

一方最近、とくにアメリカではバーディング(Birding)と、それを行う人の意のバーダー(Birder)が盛んに使われており、日本でも野鳥専門誌の「バーダー」という月刊誌がでています。

さて、バーダー(Birder)とバードウォッチャー(Bird-watcher)との違いはなんだろう？まだ国内ではやや先鋭的なバーダーに対し、バードウォッチャーはすでに安定し定着した語感をあたえますが、諸々の用例から私なりに得た感触ではBirderの方がより専門的に「鳥」を追求しているように思われます。

辞書を引くとBirdの項に「鳥を観察する」という動詞が載っているものはまだごく限られているようです。Fishingが「魚を捕る」ことでありBirdingは「鳥を捕る」、Birderはしたがって「鳥を捕る者」というのが現状です。それが「鳥を観察する」と「鳥を観察する人」と変化していくのを期待しています。

そこで、あなたはBird-watcherですか？それともBirderですか？

(松井昭吾)



蓮田市黒浜沼 ◇5月5日、コアジサシ♂1羽♀1羽。♂が懸命にエサを獲って来ては♀に与えていました。キジ♂4羽♀1羽。多分♀をめぐっての♂の争いと思われました。「ケン、ケン」と少しずつ離れて遠吠えのようにラブコールしてました(角田きみ子)。◇6月20日、カッコウ1羽が鳴きながら飛来し、樹のてっぺんにとまり鳴き続ける。今期初認。例年5月には観察されるのが、今年は大分遅れた様に感じられた(田中幸男)。

蓮田市元荒川付近 ◇5月5日、田んぼでアマサギ1羽。ムナグロ5~6羽の集団を数ヶ所で見ました(角田きみ子)。

鴻巣市郷地 ◇5月5日、ツツドリ1羽。野通川にかかる野通橋の下流の雑木林の大木で「ポポ、ポポ、ポポ、」としきりに鳴く。近づき、葉隠れの中に姿を確認した(内藤義雄)。

北川辺町渡良瀬遊水地 ◇5月12日、夏羽への換羽がかなり進んだツルシギ2羽。餌は豊富らしくまるまると太った感じでしたがこれからはるかに遠い北国まで自分の力で飛ばなければならぬのだから大変です。ツルシギの近くにコアオアシギ2羽。この2羽は翼の模様がだいぶ違うのですが♂♀年齢などに関係があるのでしょうか。どなたか教えて下さい(小松崎清、写真はP9)。

嵐山町志賀 ◇5月中旬、自宅庭に移植していたきれいな苔(30cm四方)をシジュウカラが口いっぱいにくわえて、何度も訪れてはどこかへ運んで行った。巣材として使用しているようだ(後藤喜久子)。

大滝村大滝 ◇私の家の横に杉の大木があります。その大木にカラスが営巣し、6月1日ヒナが3羽巣立ちました。村の長老が鳥



(忍田 歳子)

の巣立ちは大安日だと言っていたのを思い出し、暦を見ましたら、やはり大安日でした(原田秀雄)。

鴻巣市鴻巣公園 ◇6月5日朝、通勤途中の自転車の前4~5mのところをゆっくり飛び、ブロック塀にとまった鳥がいた。なんとアリスイ。目線より低かったので背中の斑模様もよく見えた(内藤義雄)。

鶴ヶ島市太田ヶ谷沼 ◇6月5日、ホトトギス1羽。鶴ヶ島に越してきてから初めてホトトギスの声を聞きました。10年程前住んでいた香川県の善通寺では、市街地を離れたらすぐ小さな山や海ですから、夏になるとホトトギスの声を聞き姿も見えたものでした。懐かしい声でした(塚原恵子)。

東松山市都幾川 ◇6月7日、稲荷橋周辺でアマサギ1羽、イソシギ1羽(後藤康夫)。

嵐山町都幾川 ◇6月13日、学校橋~槻川橋でアマサギ2羽、チュウサギ2羽、ダイサギ1羽、カワセミ5羽、ツバメ、イワツバメ、ヒメアマツバメ、本日は季節柄“子連れ”が多く見られた。シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、セグロセキレイ(後藤康夫)。

蓮田市笹山 ◇6月20日頃、川島橋下流でシラコバト1羽。川沿いの草原から飛び立ち20m位先の道に降り、何かをついばんでいた。この付近での観察は、農耕地が通例であるが、川沿いでの観察は初めて(田中幸男)。

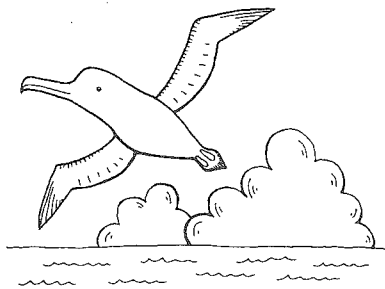
表紙の写真

コアジサシ (カモメ科)

今回は、季節の鳥コアジサシです。
6月21日、愛知県幡豆(はず)郡一色町で

撮影しました。雨の日でした。
外園たけの(春日部市)

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月2日（日）

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場。または午前8時15分 高崎線北本駅改札口、集合後タクシーで現地へ。
リーダーの指示で分乗して下さい。

担当：岡安、内藤、榎本、大坂、立岩、永野（安）、永野（京）、川那部、島田、高、山田

見どころ：皆さんをもてなす鳥たちは、只今避暑に出かけたり、木陰で休憩したりしております。鳥影が少ない分、ビデオでも楽しめるよう用意を致しております。暑いさなかですが、今回はゴミ拾いを予定いたしておりますので、協力方お願いいたします。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月9日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋

見どころ：毎年忘れずにやってくる暑い夏、いやだなあ、なんて思わないで野道を歩きましょう。暑さの中で見た鳥はきっと印象深いものになりますよ。ササゴイも明戸の堰で待っています。日差しを遮る帽子を忘れずに。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：8月16日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：昼間はまだ暑さが続く季節ですが、夕方になると渡る風の音に初秋の匂いがします。昨年は芝川でサギの仲間達のオンパレード。上空には早くもサシバが舞いました。今年の見沼田んぼは、どんな8月を見せてくれるのでしょうか。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月23日（日）

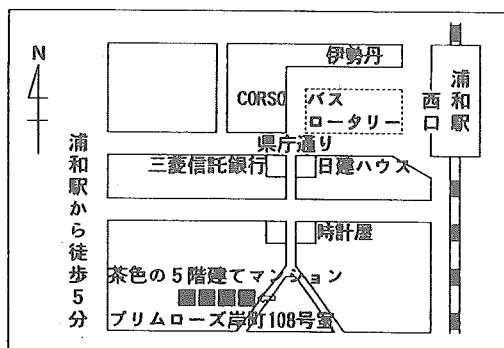
集合：午前9時30分 武蔵野線南船橋駅前
交通：武蔵野線武蔵浦和8:34→南浦和8:37→南船橋9:26着

担当：杉本、佐久間、手塚、長谷部、伊藤、篠原（東）

見どころ：シギ・チドリ等の秋の渡りの最盛期を迎えました。以前は9月だったのに地球温暖化の影響でしょうか。干潟に夏枯れはなく賑やかさを増してきました。日陰の少ないところです。残暑はきびしいので、対策を十分にお出かけください。

『しらこぼ』袋つめの会

とき：8月29日（土）午後1時～2時頃
会場：支部事務局108号室
案内：暑さの盛りも峠を越え、朝夕の風にも秋の気配が感じられます。秋の鳥の季節に備えて、探鳥旅行を計画されている方も多いと思います。しらこぼとのフライトの準備作業の中から、思わぬヒントが得られることもありますよ。



リーダー研修会

期日：8月30日（日） 午前9時～午後5時
会場：北本市文化センター（中央公民館）高崎線北本駅西口下車、徒歩約10分。大通りを真っ直ぐ進み、二つ目の信号を左折約100m。会場TEL0485-91-7321
申し込み：支部事務局または榎本普及部長まで

案内：リーダー研修会参加者募集！ この研修会も今年で15回目。支部の活動や探鳥会の運営に興味のある方の参加をお待ちしています。当支部はボランティアが支える支部です。最初は「ちょっとお手伝い」で結構。リーダーとなって、あなたの新鮮な力を活かしてみませんか。支部会員であればどなたでも参加できます。鳥についての知識は二の次。大切なのは熱意です。

持参する物：パンフ『探鳥会のすすめ方』・テキスト『あなたもバードウォッチング案内人』（どちらも、お持ちでない方には当日配布予定）、筆記用具等。



（ツルシギ 小松崎 悟）

千葉県木更津市・小櫃川河口探鳥会

期日：9月5日（土）
集合：午前9時20分 内房線いわね駅前
または、午前9時45分金田海岸駐車場
交通：武蔵野線南浦和7:45→南船橋にて京葉線乗換え8:14→蘇我で内房線乗換え8:47→いわね9:16着。乗車券は最寄り駅にてホリデーパスを買い求め利用が便利でお得です。

担当：中島（康）、櫻庭、新堂、中村（榮）

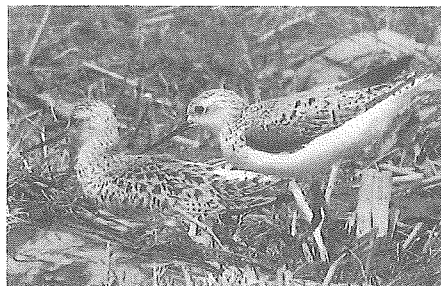
解散：現地にて午後2時頃

見どころ：秋のシギ・チドリを、広大な干潟に入り、頭上を飛ぶ鳥、間近で餌を採る姿を観察します。

注意：日陰がまったくなく、日差しは強いので、帽子、干潟を歩くための長靴、またはビーチサンダルは必ずご用意下さい。昼食、水筒、雨具もお忘れなく。トイレは駐車場にのみあります。

◆9月の行事予定

9月6日（日）：千葉県船橋市・船橋海浜公園探鳥会



（コアオアシシギ 小松崎 悟）

行事報告

4月5日(日) 北本市 石戸宿
参加: 60人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コガモ オオタカ ツミ
ハイタカ ノスリ サシバ チョウゲンボウ コ
ジュケイ キジ バン キジバト アカゲラ コ
ゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツ
グミ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オ
オジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
(39種) ソメイヨシノとスモモが満開。カバザク
ラには早く、シダレザクラとエドヒガンザクラに
は遅すぎた。“早い春の訪れ”を感じながら歩
を進めていくとタカ類が次々と出現して参加者を喜
ばせてくれた。頭上を帆翔する今年初認のサシバ
の姿には心踊った。子供公園ではフェンス越しで
はあるがカタクリを観賞した。(岡安征也)

5月7日(木) 浦和市 秋ヶ瀬公園
参加: 59人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ チュウサギ コサギ カ
ルガモ オオタカ コジュケイ キジ キジバト
カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ
モズ シロハラ ツグミ オオヨシキリ セッカ
キビタキ シジュウカラ メジロ カワラヒワ
イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (29種) 多くの参加者の期
待を裏切り、夏鳥は既に通過済み。それでもピク
ニックの森では開始早々オオタカの出現。また池
ではカワセミのダイビングを観察できた。子供の
森では、イカルが木の上でいい声で鳴き、コゲラ
の巣も観察できた。(櫻庭 勇)

5月9日(土) 千葉県木更津市 小櫃川河口
参加: 15人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
スズガモ トビ キジ シロチドリ メダイチド
リ キョウジョシギ トウネン ハマシギ ミユ

ビシギ キアシシギ ソリハシギ チュウシャ
クシギ セグロカモメ アジサシ コアジサシ
キジバト ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス
オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ム
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種)
潮干狩りの人で一杯。鳥が居るはずの干潟には鳥の
姿が見えない。心配が先に立ち、広い干潟を歩き
始めた。しばらくするとアジサシの50羽位の群れ
が頭上を飛んだ。少し奥で、ようやくキアシシギ、
トウネン、キョウジョシギの100羽位の群れが見
られた。そのうちに、チュウシャクシギ30羽も飛
んできた。鳥の数も少なく物足りない感じもした
が、こういう干潟をいつまでも残したいと感じら
れたと思う。(中島康夫)

5月9~10日(土~日) 長野県 白馬山麓
参加: 29人 天気: 晴

アオサギ カルガモ トビ ノスリ キジバト
ツツドリ アマツバメ アカショウビン アオゲ
ラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツ
バメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザ
イ ノビタキ クロツグミ ヤブサメ ウグイス
キビタキ オオルリ エナガ コガラ ヒガラ
ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ
ホオジロ ホオアカ ノジコ アオジ カワラヒ
ワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムク
ドリ ムクドリ ハシボソガラス (45種) 5時
起床。やはり早起きは三文の得!! あこがれの「キ
ロロロロ……」を全員でじっくり(?)。ノジ
コ、キビタキ、オオルリ、クロツグミなどの夏鳥
もこれまたバッチリ!! 雪の消えたゲレンデでの
ウォッチングも初体験。青い空と緑の風。バード
ウィークの最良のツアー。疲れ直しの露天の温泉
もグッドだった。さあ、来年こそ彼の姿を見よう
ぜ!! アカ君待っていてね!! (町田好一郎)

5月10日(日) 能谷市 大麻生
参加: 44人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ トビ オオタカ コジュケイ キジ バン ハマシギ イソシギ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) バードソンの日。仲間たちは朝早くから駆けまわっている。出発して間もなくキジの夫婦を見られて大喜び。また、珍しい灰色のハシボソガラス幼鳥も見ることができた。明戸堰ではバードソンチームと合流。チームの確認鳥予想投票結果の発表、賞品や参加賞の授与、埼玉TVの取材などで盛り上がった。(和田康男)

5月10日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 28人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ アマサギ チュウサギ コサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン ムナグロ キアシシギ チュウシャクシギ コアジサシ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 元荒川から黒浜沼まで歩いた。広い田圃に点在するムナグロの群れの中にキアシシギ、チュウシャクシギが見つかった。久しぶりのコアシサシのさっそうとした飛翔、最後にゴイサギ成鳥とキジが近くからじっくりと見られ、すばらしい一日だった。(玉井正晴)

5月15~17日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 18人 天気: 晴、晴後曇、雨

コアホウドリ クロアシアホウドリ シロハラミズナギドリ オオミズナギドリ ハイイロミズナギドリ ハシボソミズナギドリ ハイイロウミツバメ クロコシジロウミツバメ オーストンウミツバメ ウミウ ゴイサギ アマサギ コサギ アオサギ ヒドリガモ トビ チョウゲンボウ コジュケイ キジ トウゾクカモメ クロトウゾクカモメ シロハラトウゾクカモメ ウミネコ アジサシ カラスバト キジバト ツツドリ アオバズク アマツバメ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ イソヒヨドリ

アカコッコ ウグイス ウチヤマセンニュー イジママシクイ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス (48種) 島の様子は変わりつつあるが、今回も楽しい探鳥会となった。伊豆岬では、利島と新島の間にはそびえる富士山の姿に感激。夜は、真の闇の中で光るキノコにびっくり。低気圧の通過で海鳥にも恵まれ、外国のバードウォッチャーと交流のひとつときも。いつまでも憧れのバードアイランドであってほしいものだ。(榎本秀和)

5月17日(日) 浦和市 三室地区

雨のため中止。

5月20日(水) 栃木県 奥日光

参加: 49人 天気: 晴

マガモ トビ ツツドリ コゲラ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ コルリ ノビタキ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ コガラ ヒガラ シジュウカラ ホオアカ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 空高く舞うイワツバメと鳴き交わすニュウナイスズメに送られて湯ノ湖に出るとメボソムシクイの声。そしてセンダイ、エゾと出てくれた。湯川から戦場ヶ原にかけてはカワガラス、キビタキ、オオルリと楽しませてくれた。

(櫻庭 勇)

5月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 20人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ コサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ コチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 初夏の水辺と言えばオオヨシキリ。あのにぎやかな声を聞くと何となく楽しくなってくる。ここの探鳥会を始めてから一番個体数が多いようだ。住み家を追われてここに集まったのか? 住みやすい環境がととのったので増えたのか? 後者であってほしい。

(長谷部謙二)

連絡 中長

●バードソンご支援ありがとうございました

6月24日で締め切られたバードソン1998の結果報告が届きました。それによりますと、リブラン「しらこぼと彩の里山探見隊」は、募金額531,565円で全国2位、確認種数77種で12位、特別ポイント（ラッキーバードや里山ポイント）82ポイントで13位という好成績を上げることができました。

皆様のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

なお、今回のバードソン全体の募金額は合計919万5,732円になりました。里山保護のために有効に使わせて頂きます。

一応締め切って順位などの集計も済みましたが、9月末日まで募金の受付は継続することです。

●シギ・チドリ類のレッグフラッグにご注意

1991年から、標識調査で捕らえられたシギ・チドリ類には、足輪のほかに、プラスチックの小さな旗（フラッグ）が付けられるようになり、すでに約5万羽に取り付けられました。データの回収率が足輪だけの場合の5倍～20倍にもなって、湿地・干潟の保護のための研究の大きな力になっています。

双眼鏡か望遠鏡で見ればわかるものですが、誰でもがデータ集めに協力できます。

取り付けた場所（オーストラリア、ニュージーランド、北海道、千葉県）や時期によって、フラッグの色や位置が違います。フラッグ付きのシギ・チドリを見つけたら、右足と左足の脛とふ跡にそれぞれ何色のフラッグやリングがあるか、日時・場所・種類・個体数・分かれば性別や年齢・夏羽冬羽の違い・写真の有無・その他の特記事項とともに、

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

山階鳥類研究所 FAX 0471-82-4342

にお送りください。

●会員の普及活動（敬称略）

5月16日（土）～17日（日）、（財）森林文化協会主催の朝日の森・玉原バードウォッチ

ング教室を指導。講師：中島康夫、リーダー：松井昭吾・兼元義裕・桜庭勇・中村榮男。参加者16名。

7月5日（日）坂戸市高麗川河川改修勉強会第5回野鳥観察会。指導：黒木昭雄・坂口和子・坂口稔・増尾節子・増尾隆。参加者16名。

●本誌記事のホームページ転載について

支部のインターネットホームページに、本誌に掲載された記事を転載することもあることを、各著作権者にご了解をお願いします。

本来であれば、会員の皆様の投書なども、1件ごとにご連絡してご了解をお願いすべきですが、大変な仕事量になりますので、ホームページへの転載もあり得ることを予めご承知の上で、原稿をお寄せ下さい。

●8月の事務局 土曜と日曜の予定

1日（土）普及部会議。

8日（土）編集会議、研究部会議。

16日（日）役員会議。

22日（土）校正作業。

29日（土）袋づめの会。

●会員数は

7月1日現在3,084人です。

活動報告

6月20日（土）7月号校正作業（海老原美夫・喜多峻次・喜多彌生・桜庭勇）。

6月21日（日）役員会議（司会：工藤洋三、9月～12月の行事・総会準備・その他）。

6月28日（日）役員会議（司会：海老原美夫、新役員体制）。

編集後記

夏は虫が面白い。ニイニイゼミの初鳴きは6月26日。ゴマダラカミキリを見付けたのは翌27日。仕事の帰りに、ネクタイを締めたまま、懐中電灯を手にクヌギ林に。明かりに浮かぶノコギリクワガタ、カブトムシ達に、一人でニンマリ……ちょっと怪しいかな？（山）

『しらこぼと』1998年8月号（第172号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒150-0036 渋谷区南平台町15-8 ウッディ南平台ビル2階
（財）日本野鳥の会会員センター TEL 03-3463-8842 FAX 03-3463-8844

印刷 関東図書株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）

再生紙使用